令和８年度　学校評価アンケート（前期）の考察

学校と家庭が二人三脚で子どもを育てる中で、取組の是非を問うのではなく、「子どもの姿・思い」を把握し、学校と家庭の取組を検証・ステップアップしていきたいという思いから、質問項目を設定している。１１項目について、前期の現状と後期の方向性は以下の通りである。

1　起業家教育の認知

前年度は学校教育目標の認知を問う項目であったが、本年度から本校が力を入れて取組を始めている「起業家教育」の認知に変更した。アンケートを通じて、起業家教育の取組の周知を図りたいと考えている。今回のアンケートでは７０％を超える生徒、保護者が認知していた。今後、教育活動を充実させることにより、更に認知度を高めていきたい。

2　地域協育・地域貢献

生徒の参加度は６０％程度、保護者の意識は概ね９０％で、前年度の後期と同程度となっている。夏休み以降、地域行事の開催やボランティア活動の依頼、地域クラブ活動であるアフタースクール・プロジェクトの活動が増えてくるので、後期のアンケートでは生徒の参加度が高まるものと思われる。

3　ふるさと創生の志

生徒の肯定的な回答が８０％に達しており、意識が高い。保護者の認識も増加傾向にある。本校では「周防大島創生の志を育む」ことをスクールミッションに掲げており、総合的な学習の時間における起業家教育カリキュラムと地域クラブ活動であるアフタースクール・プロジェクトの活動を一体的に展開し、志を高めていきたい。

4　「わかる」「できる」授業

８０％を超える生徒が、授業で「わかった」「できた」と感じているものの、前年度よりもわずかながら減少している。また、保護者アンケートにおいても８．８％減少しており、看過できない。ユニバーサルデザインの視点からの授業づくりをベースに、ICT を活用した授業展開、学習の機会を増やしていくことにしており、生徒の「わかる」「できる」実感を高めていきたい。

5　家庭学習

前年度の３学期から週１時間の学び直しの時間（BST）を設定していることに加え、本年度からは毎週月曜日やテスト週間中に放課後学習会を実施しており、保護者の肯定的な回答が高まっていると考えられる。しかしながら、生徒の取組度は３．９％減少しており、BST における学習課題の選定と放課後学習会の積極的な参加を促していきたい。

6　学校行事・委員会活動・係活動

概ね８０％を超える生徒、保護者が学校行事・委員会活動・係活動で達成感・充実感を味わうことができたと回答している。２学期には体育祭、文化祭、町音楽祭等の行事が予定されており、生徒主体の企画・運営により更に高めていきたい。

7　学校や社会のルール・マナー

概ね９０％の生徒、保護者が学校や社会のルール・マナーを守り、生活していると回答している。本年度、特別支援教育の視点による「ポジティブ行動支援」を取り入れ、望ましい行動を増やす取組を行っている。年度初めには生徒会が学校で大切にしたい行動を考え、「ポジティブ行動マトリクス」を作成した。今後、望ましい行動に対して積極的に称賛・承認していきたい。

８　いじめ

概ね９０％の生徒、保護者がいじめをしていないと回答している。しかしながら、保護者の肯定的な回答は昨年度と比べて約４％低下しており、懸念される。日常生活における心無い発言やいじめにつながりかねない小さなトラブルについてアンテナを張り、早期対応、未然防止に努めていきたい。

９　教育相談

７５％を超える生徒、保護者が相談できる、相談しやすいと回答しているが、昨年度と比べて生徒は約５％、保護者は約８％低下している。生徒、保護者からの相談・問い合わせに対し、経緯や困り感、疑念の傾聴を心掛けているが、生徒や保護者の意向に沿った対応ができていないことが考えられる。まずは、平素からの温かい関係づくりに努め、相談・問い合わせに対して丁寧な説明と誠意のある対応を心掛けていきたい。

１０　柔軟性・体力の向上

７４％の生徒が柔軟性・体力アップに取り組んでいると回答し、昨年度よりも２％増加している。昨年度、体力向上の推進校に選ばれ、元オリンピック選手やプロスポーツ選手を講師に招いての運動教室を複数開催したことにより、意識が高まったと思われる。今後、昼休みにおいて生徒会と連携して運動を推進したり、保健体育の授業において柔軟運動や補強運動を取り入れたりしていきたい。

１１　睡眠・食事

約８５％の生徒が十分な睡眠と適切な食事に取り組んでいると回答し、昨年度と比べて３％増加している。７月に開催した学校保健安全委員会では、睡眠時間について「中学生に必要な就寝時間である８時間～１０時間をとれている生徒は約４０％である。」、朝ごはんについて「バランスよくしっかり食べている人が約５０％いる一方で、１品のみ、たまに食べない日がある、毎日食べないと答えた人も５０％いる。」という報告があった。意識の高まりが望ましい生活習慣につながるよう、健康・体力的な視点からもメディアとの向き合い方について指導していきたい。また、学校における食育の一環として、生徒会と連携して「給食の残食ゼロ」に取り組んでいきたい。